

甲状腺外科草子 146

北条五代の出发点：葦山

杉野 圭三

後に北条早雲（1456?—1519）と呼ばれる**伊勢新九郎**は戦国大名のなかでも傑出した外交、戦略家で伊豆、小田原、相模を平定した名将である。



北条五代の領国



北条早雲（伊勢新九郎）



「甲状腺外科草子 73」では**早雲寺殿廿一箇条**を中心に述べたが、北条五代の出发点である**葦山**を訪れる機会を得た。



葦山市街図



葦山駅（伊豆箱根鉄道）

JR 三島駅から伊豆箱根鉄道で約 20 分、葦山に着く。葦山反射炉も見学するなら伊豆長岡駅からのアクセスのほうが便利だろう。



葦山城址

同空撮

葦山城址付近には看板があるだけで整備されず、「猪に注意！」との情報もあり、城址の丘の上まで訪れるのは中止した。



葦山城址の説明版

葦山の名前は現在、**葦山反射炉**として知られることが多い。葦山反射炉は、江川英龍と息子の江川英敏（太郎左衛門）が 1857 年（安政 4 年）に完成、国の史跡でユネスコ世界遺産暫定リストへ掲載された。



葦山反射炉



鑄造された大砲

葦山反射炉は世界に誇れる江戸時代の技術力を示す重要遺産だが、早雲の業績も極めて優れたものであり、葦山城のさびれた現状は残念で心が痛む。

早雲寺殿廿一箇条の中の興味深い部分を記す。

十一、諸事可任人事（何事も適切な者に任せること）

十二、讀書事（書を読むこと）

十五、可学歌道事（歌道を学び品性を養うこと）

十七、可撰朋友事（友とする者はよく選ぶこと）

「何事も適切な者に任せる」という家訓は稀で、領主としての自信が無ければできない。家臣や友人への信頼厚く、文武両道、質実剛健、誠実さを重視したことが良く分かる家訓である。

北条早雲は「**四公六民**」という当時破格の低い年貢を堅持、豊かな国を目指し領民から「**葦山様**」とも呼ばれ名君と慕われた。

後世、北条早雲は次のように評価された。

北条五代記：「進みては万人を撫でん事を図り、退きては一身の失あらん事を恥づ、楽しみは諸侯の後に樂しび、憂いは万人の先に憂ふ。中略、万民を憐み給ふ事、ふる雨の国土を潤すに同じ」

東溪宗牧：東海路に武勇の禅人有り、諱を宗瑞という。固（まこと）に一世の雄にして仏法中の人也

葦山様を偲び静かな田園風景を楽しむのも一人旅の面白さかな。（甲状腺外科草子 73 と一部重複あり）

参考資料：葦山城址（伊豆の国市文化振興課）、戦国大名 北条氏の歴史（小田原城総合管理事務所）など

（ 一甲状腺外科医の徒然なる随想 ）

2025 年 7 月 25 日